



読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

本州へ送電 3年で8倍

20年度8億8800万キロワット時 余剰再生エネ活用

北海道と本州を結ぶ送電線「北本連系線」を通して本州に移出された電力量が、2020年度は8億8800万キロワット時を超え、連系線増強前の17年度比で8倍超と大幅に増えたことが分かった。道内の電力需要が低下する春を中心に、太陽光や風力など再生可能エネルギー由来の電気が移出されたとみられ、今後も余剰再生エネの活用が進む可能性がある。

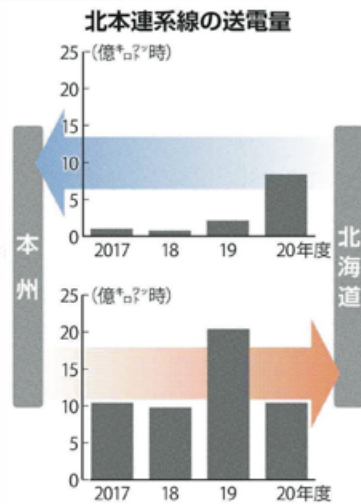
電力広域的運営推進機関（広域機関）が公表している「北本連系線」の5分ごとの「潮流実績値」を基に、北海道新聞が分析した。20年度は北海道への移入が10億3990万キロワット時と17年度並みだったのに対し、北海道からの移出は8億3621万キロワット時で17年度の8・2倍に達した。この移出電力量は道内の供給電力量の3%弱に当たる。

北本連系線による電力融通は従来、道内の電気が不足しがちな厳寒期や盛夏の移入が中心で、17～19年度

も移入が移出を大きく上回り、月別で移出が上回ったのは19年6月だけだった。一方、20年度は4～6月と21年1月に移出が移入を上回った。移出電力量は4月が1億56万キロワット時、5月が1億9447万キロワット時、6月が1億2717万キロワット時。春は暖房需要などが落ち込むため、電力関係者は「電力卸市場に出された太陽光など再生エネ由来の余剰電力が本州に送られた」とみる。

21年1月も移出電力量が1億4971万キロワット時に上ったが、寒波の影響で本州の電力需要が逼迫し、北海道からの送電量が増えたことが主因だ。

北本連系線は19年3月に



送電容量が従来の60万路から90万路に増強された。5月4～6月は50万路以上が目立ち、75万路台の時もあった。道内で現在稼働する発電所で最大出力の苫東厚真火力4号機（胆振管内厚真町、出力70万路）に相当する規模で、広域機関は「連系線増強で電気をやりとりしやすくなった。道内需要が小さい時は本州へ流れている」と指摘する。

ただ、北海道は再生エネの潜在能力が高い割に活用が進んでいないとされ、北海道電力再生可能エネルギー部長は「北電グループは他の大手と比べて再生エネ拡大の動きが鈍い。北海道経済の自立につながる再生エネ移出拡大にもっと力を入れるべきだ」と話している。

(森川純)

『北海道新聞』 2021年8月22日(日) 朝刊

- (1) とありますが、主にどのような時期に、どのような電力が送電されたとみられますか。

- (2) 20年度に本州と北海道との間で融通された電力のうち、北海道からの移出と北海道への移入のどちらがおよそ何億キロワット時大きいですか。

- (3) とありますが、「北本連系線」は今後も増強の計画があります。その目的を2つ探して書きなさい。
